

東久留米市緑の基本計画等検討部会 会議録

1. 会議名 第9回東久留米市緑の基本計画等検討部会
2. 日時 令和4年12月23日(金) 午前9時30分から12時00分
3. 場所 市役所7階 701会議室 (Microsoft Teams 併用)
4. 出席委員氏名 (敬称略) 杉原弘恭 (部会長)、水戸部啓一、土屋守久、下村央行、高橋喜代治、大塚ちか子、豊福正己、板倉正弥
5. 欠席委員氏名 (敬称略) 菅谷輝美、吉川雅継
6. 事務局職員名 環境政策課長、緑と公園係長、計画調整係長、計画調整係主事、コンサルタント会社 (アジア航測株式会社)
7. 傍聴人 0名
8. 議題
 - (1) 第8回検討部会会議録 (案) の確認 (資料1)
 - (2) 緑の基本計画等策定について
 - ・パブコメの実施状況について (資料2-2)
 - ・コラムの検討 (資料2-3)
 - ・資料編の検討 (資料2-4)
 - (3) その他
 - ・次回の日程について (参考資料1)
9. 配布資料
 - 第8回検討部会会議録 (案) 資料1
 - 第8回検討部会における合意事項と第9回検討部会における協議事項..... 資料2-1
 - 東久留米市第三次緑の基本計画・生物多様性戦略 素案..... 資料2-2
 - パブリックコメントとその対応方針 (案) 資料2-2 別添
 - 東久留米市第三次緑の基本計画・生物多様性戦略 コラム..... 資料2-3
 - 東久留米市第三次緑の基本計画・生物多様性戦略 資料編..... 資料2-4
 - 部会員意見と対応方針 (案) 資料2-2 別添
 - 第三次緑の基本計画等策定スケジュール..... 参考資料1

10. 第9回東久留米市緑の基本計画等検討部会

(1) 第8回検討部会会議録（案）の確認

【事務局 等】

- ・ 前回の会議録は事前にご確認いただいている。加除修正等あればお願いしたい。

【部 会 長】

- ・ 文中の委員の名前が残らないように注意していただければと思う。

(2) 緑の基本計画等策定について

【部 会 長】

- ・ それでは本日の議題に入る。次回が最終回ということで、素案とパブリックコメントの意見、コラム、用語集の修正を合わせたものを次回チェックすることになる。
- ・ 本日は基本的にパブリックコメントとコラム用語集をチェックすることになる。事務局より説明をお願いします。

【事務局 等】資料 2-2 別添説明

【部 会 長】

- ・ 我々は慣れてしまっていて、条例と緑の基本計画の関係も言わずもがなと思っていた所をご指摘いただいている。みどりに関する条例との関係について、事務局はどのように処理する予定か。

【事務局 等】

- ・ 従前の計画には条例の記述はしていなかったのですが、ご指摘を受け、素案4ページの表であるが、「1973年（昭和48年）東久留米市のみどりに関する条例施行」から市の水と緑の施策がスタートしているというところを追加している。

【委 員】

- ・ 項番6の「ご意見に対する市の考え方（案）」のところで、「ご意見を踏まえて、「東久留米市のみどりに関する条例」について記載します。」とあるが、その前に「3章1計画の位置づけ」では…とある。計画の位置づけの所に書かれるのかと思ったが、そうではないのか。

【事務局 等】

- ・ 「第3章1計画の位置づけ」については、前回計画でも個別に条例との関係性は記載しておらず、国の施策や東京都の施策のような広域施策と市の施策との関係性を、ここでは表すということで進んできている。こちらでみどりに関する条例に対する考えを盛り込んでいくと他の関係条例も出てくるので、そのような考えの元で整理している。

【委 員】

- ・ 最後の「条例について記載します」については、どこに記載するのかを書いた方がよいのではないのか。

【事務局 等】

- ・「1章3「東久留米市の水と緑の施策の歩み」に「東久留米市のみどりに関する条例」について記載します。」という表現の方がよろしいか。

【委員】

- ・恐らく質問の趣旨は、みどりに関する条例が計画の中にどのように位置づけられるのかということだと思う。表に載せたというだけでは不十分ではないか。

【事務局 等】

- ・位置づけについては、「ご意見に対する市の考え方（案）」上段の方に、「市民と事業者との市の義務や緑化基準などを定めた規定であり、緑の基本計画の策定根拠となる重要な条例」と記載している。

【部会長】

- ・緑の基本計画にどう反映させるかというのがポイントであって、パブリックコメントに対する説明とは別の話である。緑の基本計画はどのように修文なりをするかということではないのか。
- ・例えば、素案1ページの第2パラグラフ「緑の基本計画は、都市緑地法に基づき、…定める基本計画です。東久留米市では今の環境を次世代につなげるための計画として…」の前に、「みどりに関する条例に基づき」という一行を入れればよいのではないかと思うが、いかがか。

【事務局 等】

- ・その方向で調整させていただきたいと思う。

【部会長】

- ・もしくは、「みどりに関する条例に基づき」というのが、時代との齟齬があるということであれば、「みどりに関する条例を受けて」という表現でもよいのではないかと思う。「基づいて」というと、時点の内容的なずれや、条例と違うではないかという話になるので、「受けて」の方がよいと思う。そのようにお願いしたい。
- ・その他に意見等はあるか。我々は慣れている世界だと思うが、改めてご指摘いただいたところであろう。他の所はテクニカルでカバーしていると思うが、いかがか。

【委員】

- ・項番1で「統一した用語の使い方に留意します。」とあるが、どこか直したのか。

【事務局 等】

- ・こちらは先ほどのご説明で申し上げたとおり、都市計画道路に関する記述を都市計画マスタープランと合わせたということである。

【委員】

- ・具体的にはどの辺りか。

【事務局 等】

- ・水と緑と将来像のイメージで、各拠点に立つ考え方の所である。

【事務局 等】

- ・東京都の事前協議でもご意見をいただき、都市計画道路なので、整備の主体などのご

議論をいただいた。都市マスでもそのようなご指摘はあったが、市としての考え方ということで言葉を作っており、そちらの方に合わせたということである。市としての考え方はぶれない表現にしている。

【委員】

- ・都市計画道路以外の話は特に直してないのか。

【事務局 等】

- ・細かい言い回し等を修正することはあっても、大きな意味が変わるような所は一切なかったということである。

【委員】

- ・例えば、19ページの、「⑦小山・氷川台」に「都市計画道路東3・4・21号線の整備にあたっては、周辺の自然環境に配慮した整備のあり方について検討します」と書いてあるが、これを変えてほしいというのが東京都の意見ということか。

【事務局 等】

- ・今までの資料には「整備を進めます」という形で記載していたのだが、整備を進めるのはどこなのかという東京都の指摘があり、そちらについては、市では都市マス以外の表現を持っていないので、そちらに合わせたということである。

【委員】

- ・例えば、東京都の意見に対して、市の回答では「環境を守ることができることのできる整備のありかたが明らかになるまで、整備を留保し、実現性や変更等、都市計画道路のあり方について検討します」との表現に修正します」と書いてある。そのようになっていないのではないか。

【事務局 等】

- ・そちらは竹林公園の所だと思う。

【委員】

- ・竹林公園も小山と同じではないのか。

【事務局 等】

- ・「その環境を守る整備のあり方が明らかになるまで、当該区画の整備を留保し」という記述はしている。場所によって表現が異なるのでややこしいが、⑩はそのようになっている。

【委員】

- ・「⑦小山・氷川台」についても都市マスには同じように書いているので、こちらも直さなければならないのではないか。「3・4・21号線の整備にあたっては」以降は直っているが、その前の「その環境を守ることができる整備のあり方が明らかになるまで、当該の整備を留保し、実現性の変更と都市計画のあり方について検討します」という文がない。3・4・13号線には入っているが、3・4・21号線には入っていない。
- ・都市計画道路の話は、竹林公園と南沢と小山の3カ所について都市マスには書いてある。だから3カ所とも同じような表現にした方がよいと思う。南沢と竹林公園は変わ

っているが、小山が変わっていない。

【事務局 等】

- ・小山は変わっている。小山は「周辺の自然環境に配慮した整備を進めます」というような記述をしていたが、今日の資料では「整備のあり方を検討します」ということにしている。

【委員】

- ・ただ、その前段がない。例えば、今の竹林公園の話であれば、「竹林公園周辺の一部の区間を自然環境を守ることを前提とした区間とし、その環境を守ることでできる整備のあり方が明らかになるまで当該箇所の整備を留保し、」という一文が竹林公園と南沢には入っているが、小山には入っていない。

【事務局 等】

- ・その表現は都市マスにも入っていない。

【委員】

- ・小山も入っていたのではないか。入っていないのか。

【事務局 等】

- ・その色合いが違うので、委員がおっしゃるような言葉が小山の部分には表現していないという理解かと思う。
- ・「整備をします」、「整備を進めます」、「配慮した整備をします」という、緑に関する思い等を表現している部分については、東京都との協議もあったので、あくまでも都市マスに沿った「配慮を検討します」というような修文をしたということである。

【委員】

- ・都市マスに書いてなければ仕方がないが、例えば、小山のある一部も整備を進めているが、竹林公園を通る部分は整備しなくても、そこまでの道路は整備するのだろう。その道路自体を全部留保するわけではない。竹林公園を通る部分を留保しますという意味か。
- ・ある意味小山も同じである。小山の保全地域を通り越して、西武線を渡る部分を留保するという意味なのだろう。都市マスに書いてないのであれば、都のとおりでよい。

【部会長】

- ・他に意見がなければ、パブリックコメントについてはこれで終わりたいと思う。
- ・コラムと用語集の検討に移りたい。これもページバイページで見ていく。最初に事務局の方からコメントがあればコメントをいただいて、その後委員の皆様から意見をいただくという進め方にしたい。

【事務局 等】

- ・初めにコラム 14「水と緑のいきものの市民活動について」であるが、本日お配りしている資料の表の「団体名」と「主な活動」の表記について、議論の過ぎたものを誤って送付してしまった。前回までの議論では、団体名の順番はどうなっているのかというご意見があり、順不同という表現にするとしてこの議論は終わっていたものであ

る。お詫び申し上げます。

- ・また、学校法人自由学園の記載の部分を一部のグループだけが記載されているというご意見があった。修正の案としては、表記名は「学校法人 自由学園」として包括するという形に修正させていただければと思う。

【部 会 長】

- ・コラム2はいかがか。前に説明したかもしれないが、少し修文を加え、図中の言葉をより正確なものにしている。よろしいか。
- ・コラム3について、これは委員とアジア航測で揉んでいた所で、事務局か委員から説明をお願いしたい。

【委 員】

- ・ここは、前回の中間見直しの時に、私は清瀬だけを見て、あとはアジア航測さんがデータをどのように取ったかを全部ご存じなので、そこに合わせて作っていた。今回もそのような流れだと思っていたが、始めてみると、前回とは違って複雑であった。
- ・前回は市内の総種数のリストが与えられていて、その中で考えるということで、清瀬との比較などをしてきた。今回は平成30年から令和3年までの、種が限定されたモニタリングのデータと、平成23年から令和3年の11年間のデータがあるので、どのような由来のデータかが分からないと、読む人が混乱すると思う。中間見直しの時の平成23年からのデータは、いろいろな出典があり網羅的であったが、今回はそれが入っていないので、この出典が何かというデータの根拠が見えない。
- ・もう一つは、希少種の確認というのが右側にあるが、この前は両生類が入っていなかった。実は今回アジア航測で保全地域を調査された時に、自由学園のデータを出してほしいと言われたので、アズマヒキガエルのデータを出した。アズマヒキガエルは2020版の東京都の絶滅危惧種に入っており、水と関係も深いのでかなり大きく取り上げられていたが、それが入っておらず、どのようなデータによるのかが理解できず、混乱した。
- ・以上を踏まえ、今回はデータの扱い方が難しいので、コラム3はアジア航測には今回のデータに基づいたところを書いていただいて、それから章を分けるなどして、ここに入らなかった部分をうまく入れ込むと全体の状況は分かるのではないかと考えて、緑字の所を書いた。
- ・例えばハンノキ等の樹木について書いてある所は、実は委員が調査されている。カエルも委員が調査されているので、今回の拠点別調査方法の所には入っていないが、市内には生育している種類で、これについては気を付けて見ていこうというような、トピックス的なことをコラムに入れた方がよいのではないか。
- ・それから先生と委員が、過去のムサシトミヨの事を書かれているが、市の78年の植物リストを見ると、バイカモがあったとはっきり書いてある。そういう時代もあったがそこは変わったというような、大きい視点のことを書かせていただくのがよいのではないかと考えた。

【事務局 等】

- ・コラム3はいろいろなやり取りがあり、お互いに出し合った文章を全部ここに示している。確かに、現況の記載と比較の記載は分けた方が、筋が通るのではないかと思っている。前回のコラムのタイトルが「生きものの現況と比較」ということでまとめてあったので、なかなか難しいと思った。
- ・事務局の案であるが、赤字の所を別のコラムにするか、資料編の方に入れ込んでしまってもよいのではないかと考えている。ご意見をいただいて検討したいと思う。

【委員】

- ・テクニカルな話で言うと、とてもこれは1ページに入るという感じがしない。だからここで訴えたいことはもう少し盛っていく必要があるし、比較が必要なら比較は別にして資料にするなど考えた方がよいのではないか。
- ・前は写真も入って分かりやすかったが、今回は文章が長くてとても読む気にならない。これはフォントが小さいが、まともなフォントにすると恐らく2ページでも収まらないかもしれない。その辺も含めて考える必要があるのではないか。

【委員】

- ・魚の名前など固有名詞がたくさん出ているが、今の時代は、文章を読まないで画像で確認する。これは活字が多い。
- ・私のコラムに一枚の写真を載せているが、このパンチ力がすごい。私はありのままを書いたのだが、この一枚の写真から相当なことを一般の人が読み込んで感じている。今の時代は画像が結構大事なので、活字だけというのはつらいだろう。

【委員】

- ・私もこちらを読んだ時に、こちらのデータと合わないのをおかしい、よく分からないと思った。
- ・生き物の確認状況には、11年間で出したデータやモニタリングのデータ等いろいろなデータがここに入っている。そこがはっきり分かるようにしていただいて、資料の現況に入れていただいた方が分かりやすいのではないか。

【部長】

- ・今の意見は資料編に入れた方がよいということか。そうすると、資料編の75ページの確認状況の最後の所に入れるという考えでよろしいか。

【委員】

- ・どこが一番分かりやすいか、つまり表もいくつかの違う対象について入っているので、入れる場所は事務局で検討していただければと思う。

【部長】

- ・資料3「3生きもの確認状況」の75ページから78ページまでであろう。写真も入っているので、写真を見て、読んでみようということになるかもしれない。
- ・それでは資料編の79ページあたりにコラム3は移すことにして、次回までにもう少し詰めていただく。

【委員】

- ・委員が調査されているのは、決まったモニタリング種だけではいので、そのような部分が出ると、非常に生き生きしたものになるのではないかと思う。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・コラム3を全て資料編の言葉に溶け込ませるといことか。

【委員】

- ・コラム3は後半の周辺地域からの比較の部分だけである。文章はもう一度考える。

【部長】

- ・全部移してもよいのではないか。いかがか。

【委員】

- ・皆さんのご意見に従う。資料編が長くなってしまいかもしれない。

【部長】

- ・資料編は別に長くても細かくてもよい。コラムはちょっと一息ついて読める、豆知識のようなものを書いた方がよいと思う。

【委員】

- ・では、その方がよいかもしれない。

【部長】

- ・コラム3は、全部資料編の生きものの確認状況の最後のページに移すということはいかがか。

【委員】

- ・この部分は多分、一般の市民の方の他に学校でも使われる。そうすると、数字の根拠は何かということも必ず出てくる。

【部長】

- ・モニタリングが次に出てくるし、資料全体としてチェックできる。

【委員】

- ・その時は、前回と調査方法が違うのはコロナのせいだったのだということが言える。

【部長】

- ・そこも但し書きで明記しておけばよいのではないか。
- ・コラム3は資料編の方がよいだろう。
- ・コラム4とコラム5はそのままでよいだろう。写真は、昔の合流点の写真が郷土資料館にあるが、それを入れてはどうか。ちょうどその写真の頃の事を書かれているような気もする。

【委員】

- ・ムサシトミヨの写真を入れるとか。ただ、ムサシトミヨは東久留米で取れた写真ではなく、埼玉県の実験場の写真しかない。秋篠宮が来られた時に展示したムサシトミヨの写真はあるが、埼玉の水族館のものである。

【委員】

・何年か前の南沢のアマガエルとかアカガエルとか、以前白山公園撮ったダルマガエルの写真がある。あとはイトトンボの何種類かの写真もある。

【委員】

・それがあると、とてもよいと思う。

【部長】

・先ほども話があったが、文章ばかりだとしんどいかもしいないので、ビジュアルに少し力を入れてもよいかもしれない。

・合流点の古い写真は、出典を明記して載せることはできる。それはこちらで手配する。

【委員】

・ムサシトミヨとムサシトミオとあるが、この辺ではムサシトミオと言っていたのか。

【委員】

・訛りみたいなのもある。

【委員】

・ムサシトミオだったとはっきりしていれば、そのように認識できる。

【部長】

・コラム4の中段のカジカ、トゲウオ、ムサシトミオの部分は加筆されるか。

【委員】

・昔の言ったとおりであるが、方言と言えば方言かもしれない。

【委員】

・そのままよいのではないか。地域や時代による呼称を知ることができる。

【部長】

・これはムサシトミヨがカジカと呼ばれていたということであろう。地方によってカジカの種類が違う。

【委員】

・市史にもいろいろな名前が入っている。

【委員】

・原文のままよいのではないか。

【部長】

・それではコラム6について。前の文章を修文している。写真はこれでよいか。クツワムシはもういないのか。

【委員】

・分からないが、私は会ったことがない。鳴くのは夜ではなかったか。いるものかもしれないが、東久留米では鳴き声も聞いたことがない。

【部長】

・それではコラム6はこれでよろしいか。

【委員】

・写真のつながりはこれでよいのか。

【部 会 長】

- ・これは差し替え済みか。

【事務局 等】

- ・南沢の写真は暗いとのことだったので、明るいものに差し替えた。

【部 会 長】

- ・この南沢緑地保全の写真はよい。昔に雑木林はこういう感じで、道が生活道路のようになっていた。懐かしい感じがする。
- ・コラム7はいかがか。地域づくりの所は審議会委員と委員の方で作ってもらったものを微調整、微修正したものになっている。緑の保全とワイズユースの方につなげるということがあり、持続可能な地域づくりのコラムというのは、今回大変必要だと思うので、入れるのは大事だと思う。
- ・コラム8は玉川上水、野火止用水の辺りのことであるが、これもよろしいか。

【委 員】

- ・これ3行目のタマアジサイの“(注1)”とは何であったか。

【委 員】

- ・タマアジサイはこの辺にある普通のアジサイとは違い、つぼみが玉のような形をしているということをどこかに入れるのではなかったか。今文章には入っていないが、それがあつた方が分かりやすいのではないかということだったと思う。

【委 員】

- ・そのような記憶はある。

【委 員】

- ・タマアジサイの写真の下に入れた方がわかりやすいかもしれない。

【部 会 長】

- ・いつから“(注1)”が入っていたのか。

【委 員】

- ・わからない。赤字なので今回入れたのではないか。

【事務局 等】

- ・これは誤りということで削除する。

【委 員】

- ・タマアジサイの丸いのがつぼみだという説明を入れた方がよいのではないか。見たことがある人はすぐわかるが、見たことがない人は全然分からない。

【委 員】

- ・それを入れると、他のものにも説明を入れなければならない。

【委 員】

- ・ただ、これは特殊なものである。3cmくらいの玉で、これが割れて中からガクアジサイの花が出てくる。

【委 員】

- ・そのような説明を本文に入れてはどうか。

【委員】

- ・それでは案を出す。

【部長】

- ・コラム9、これは審議会委員からいただいた、アンモニア性窒素について。アンモニア性窒素に関しては農地や山林からの自然由来と、産業系があるが、メインは生活排水を伴うものなので、ここでは委員に書いていただいた。緑字は事務局で加筆されたもので、少し専門的ではあるが、大事なことなのでこれはこれでよいと思う。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・このコラムは計画の目標の後に挿入することを考えている。今回当初のタイトルが「アンモニア性窒素とアユの生態について」ということで、アンモニア性窒素にフォーカスしたものになっているので、つながりを意識して「水質の環境水準の中には」という書き出しにした。

【部長】

- ・明確になったと思う。私が原案を作ったが、用語集の水質調査の項目と窒素関係の二つを審議会委員と委員にも見ていただいたものが入れているので、「資料11 関連基礎用語集“水質調査”と”窒素関係“を参照」とあるように、ここを見ていただければ、完全に把握できることになる。
- ・次にコラム10、都市公園の歴史についてということで、これは事務局が作成したものであるが、いかがか。

【事務局等】

- ・ボリュームとしては少し多めではないかという感じがしたので、それも含めて皆さんからご意見をいただけるとありがたいと思う。

【委員】

- ・ボリュームは多いと思うが、将来の方向性はしっかり書かれているので、これはこれでよいと思うが、文章だけでは寂しいので、入るスペースがあれば写真等があるとよいと思う。

【部長】

- ・コラム11と合わせていかがか。

【委員】

- ・都市公園の歴史とインクルーシブ遊具の掲載場所はどのようになるのか。

【事務局等】

- ・どちらも3章の9の中に入る予定である。
- ・コラム10後半の「一方、・・・」以降の文は東久留米市の課題に言及しているので、この部分を少し削って、写真を挿入するような形で調整させていただきたいと思う。

【委員】

- ・無理やり削ることはない。

【部 会 長】

- ・コラム 10 とコラム 11 を合わせて、写真を載せるようにするか。

【委 員】

- ・それはそれでよいと思うが、そこまで削れるかどうか。

【事務局 等】

- ・そのような形で、コラム 10 とコラム 11 をつなげた上で、最後に写真を載せるという事で調整する。

【委 員】

- ・コラム 11 に「障がいの有無」と書いてあるが、使い方としてはどうなのか、問題はないのか。

【事務局 等】

- ・これは国で考えるインクルーシブ遊具の定義付けから引用した言葉だと思うが、もう一度確認する。

【部 会 長】

- ・コラム 12 についてはいかがか。

【委 員】

- ・私がこれを書いた。文章が長くなってしまったが、もう少し短くして、「キノコの仲間を見ていくとその林の変化がわかります。安定した林には毎年同じ季節に同じようなキノコの種類が見られます。」の後に「気を付けて触らないようにして見てみましょう。」というような一文を入れるのはどうか。

【事務局 等】

- ・「見てみましょう」という主旨の文章になってしまうと、当初こちらで書いたナラ枯れ、カエントケのコラムと、主旨がだいぶ変わってきってしまうと思う。

【委 員】

- ・例えば、南町でカエントケに気が付いた人は、朝の散歩で気が付いた。このように、キノコを見ている人がいないと気付かないかもしれない思った。これは違うキノコだからすぐに知らせようというような感じで、キノコを受け止めてもらった方がよいのではないかと思う。

【事務局 等】

- ・注意喚起の表現を挿入するかしないかというところでは確かにおっしゃる通りであるが、「キノコを観察してみましょう」という意図の文章と、「危険なキノコが発生しています」という文章を組み合わせるのはアンマッチではないか。

【委 員】

- ・文章を組み替えて、最後に注意喚起をもってくるのはどうか。

【事務局 等】

- ・「気を付けて観察しましょう」という文章を置き換えた上で、注意喚起の方に持っていくのであれば、調整の余地はあると思う。

【委員】

- ・「キノコは触らない方がよい」ということを入れてもよいのではないかと考えていた。

【委員】

- ・私は入れてもよいと思う。触るなということと、もう一つは胞子を吸いこんでも喉が焼けたりするらしいので、その辺りの注意喚起も併せて載せておいた方がよいと思う。

【事務局 等】

- ・「市までご連絡ください」の後に、この赤字の文章がつながるのは不自然なので、内容を精査しながらミックスしていこうと思う。

【委員】

- ・ナラ枯れの後に入れてはどうか。

【事務局 等】

- ・「ナラ枯れ被害木の周辺で発生しやすいと言われていました」というところまでは前文のままでもよいと思うが、「速やかな…」以降を最後に持つてくるような形にした方がよいと思う。

【部 会 長】

- ・その辺りの調整は委員と事務局で相談していただければと思う。
- ・コラム 13 についてはいかがか。

【委員】

- ・最近市内の河川でウチワゼニクサが増えてきているので、これは入れておいた方がよいのではないかとということで載せた。今は黒目川、落合川、立野川の3河川で見られるようになっている。

【委員】

- ・オオフサモのことも書いた方がよい。最後に要注意外来種であると書いてあるが、もう少し加えてはどうか。

【委員】

- ・資料編 77 ページに載っているなので、あまり詳しく入れなくてもよいのではないかと考えた。

【部 会 長】

- ・「77 ページを参照」と入れればよい。

【委員】

- ・今はオオフサモの方がすごい。黒目川全域で出てきている。

【委員】

- ・緑がきれいだからと移植する方がいる。

【部 会 長】

- ・ホテイアオイもあった。

【委員】

- ・ホテイアオイは最近だいぶ見られなくなった。

【部 会 長】

- ・77 ページを参照するように入れている。
- ・コラム 14 は先ほど事務局から説明があったように、表の差し替えをお願いする。「順不同」も忘れずに入れていただきたい。
- ・コラム 15 はいかがか。このポスターが暗い感じがするので、もう少し明るいのはないか。

【事務局 等】

- ・これは環境シンポジウム当時のポスターである。

【委 員】

- ・写真を張り付ける時に、もう少し明るくして張り付ける方法もあるが、そうすると「東久留米市環境シンポジウム」というのが見えにくくなるかもしれない。

【委 員】

- ・生きものの係ということに対して、ここに毎年環境フェスティバルことを、一言、一行追加した方がよいのではないか。
- ・上の赤字の「発表などを実施してきました。」の次に「毎年環境フェスティバルをいろいろな形で実施し、生きもののことをお互いに知り合うようにしてます。」というような文があると、単に過去のことではないという感じが出ると思った。

【部 会 長】

- ・文章にすると難しい。最初に環境シンポジウムに絞っている。

【委 員】

- ・表題の「いきもの係」が環境シンポジウムにつながっているので、そうすると表題も変えなければならない。

【委 員】

- ・そこでなくてもよいが、どこかに「環境フェスティバルでも」という文を付けてはどうか。環境フェスティバルは環境シンポジウム前のものなので、加えた方がよいと思う。

【部 会 長】

- ・最後になお書きするぐらいでもよいかもしれない。

【委 員】

- ・あるいは、中段の「また市では、」の所はどうか。

【委 員】

- ・その前の 14 のコラムの所に「以下に、環境フェスティバルに出展している」という形で出ているので、ここに入れてもよいのではないか。

【委 員】

- ・そこに入れると、環境フェスティバルはこのリストに載っている団体だけがやっているような感じになってしまうので、こちらにも入れてはどうかということである。

【部 会 長】

- ・先ほど意見があったように「また市では、」の所に入れるか。何がよいか。

【事務局 等】

- ・環境フェスティバルでホトケドジョウを展示した時もあった。そのような「環境フェスティバルでも生きものに関する展示や、市民からの研究報告書が挙げられています」というような、生きものにつながるようなイメージではないか。

【委員】

- ・ふれあいボランティアもあり、皆さんそれぞれ展示されている。いきものがかりというミュージシャンもいるので、キャッチコピーとして入りやすいということもある。

【部会長】

- ・「また市では、環境フェスティバルの展示の他、」という一文を入れることにする。
- ・コラム 16 についてはよろしいか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・18 ページの図面は、前は人口の予測と世帯数の変化の二つを入れていたが、全体的には下段の人口・世帯の長期変遷その図の方が緑の推移と合わせて一番分かりやすいということで、世帯数の変化と土地利用と人口・世帯の長期変遷の二つの図面を使用することにした。
- ・本文の方に「第 5 次長期総合計画の予測では」と同じ文章があるので、図面は必要ないのではないかということで削除した。

【事務局 等】

- ・長期計画の所は本文で十分伝えられているので、前回部会長にご提供いただいたグラフの方をフォーカスできるようにということで選別した。

【委員】

- ・この下の図だけでよいのではないか。

【事務局 等】

- ・それも事務局で考えていた。もし、土地の利用と人口・世帯の長期変遷の図だけでよいのであればということである。一つかつ二つか、ご検討をいただければと思う。
- ・下の図だけでは単独世帯の増加が見えないということで、二つ入れているという状況である。

【部会長】

- ・データが取ればグラフに入れてもよいが、昔のデータはあるか。もし古いデータが取れるのであれば、下の図にもう一つ破線のグラフを入れてもよいのではないかと考えた。

【事務局 等】

- ・国勢調査のデータなので、ある程度のデータはあると思う。

【部会長】

- ・どちらがよいか。グラフがぐちゃぐちゃするだろうか。

【委員】

- ・そのような感じがする。

【部 会 長】

- ・上のグラフを取るのであれば、文中でそれを補えないか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・文中に「単独世帯化と高齢化が進んでいるため」とある。

【部 会 長】

- ・そこに例えば 1995 年 23%から 2020 年 34%とか、時点間の比較水位を括弧で入れるか。そうすると高齢化も入れなければならなくなる。

【委 員】

- ・みんな印象で分かっていると思うが。

【部 会 長】

- ・単独世帯だけ数字を入れると、高齢化はどうなのかという話にならないか。国勢調査であればデータはあるはずなので、1995 年と 2020 年の比較などを見ていただく。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・ではここは括弧書きか何かにするということで承知した。

【部 会 長】

- ・それでは資料編に移る。資料 1、適応法は入れなくてもよかったか。気候変動適応法で、国は適応計画を策定している。これを入れて欲しいとコメントを入れたつもりだったが、あった方がよいのではないか。ない方がよいか。
- ・入れると結構ぐちゃぐちゃするかもしれない。主な計画はどこかに入れているか。

【委 員】

- ・右に小さく「■関連する国・県の施策・計画等」とある。入れるならここはどうか。

【部 会 長】

- ・ここでよい。ここに気候変動適応計画を入れていただければと思う。
- ・資料 1 と資料 2 はそれでよいだろう。
- ・資料 3 は 56、57 ページを少し正確にしたということである。

【委 員】

- ・57 ページ下の赤字の「この辺りの地下水の水温は…」という文章は私が入れたが、「かんきょう東久留米」にも水温の測定値が入っていないようなので、これはやめてもよいのではないかと思った。

【委 員】

- ・水温は計っている。

【部 会 長】

- ・「かんきょう東久留米」の 22 ページにある。だいたい 17℃である。

【部 会 長】

- ・「湧水の水温は」とあるので、湧水ではないか。

【委 員】

・湧水量や流れている所で温度が変わるので、ここまではっきり書いてしまうのはどうなのか。年間平均気等、今はいろいろ変わってきている。

【委員】

・もう一つは、地域の平均気温と同じという事実があるかどうかである。

【委員】

・昔はそう言っていたが、そうとも言えなくなっているのを削除していただいてもよい。

【部長】

・今でも平均気温ではないか。地下水のテキストにはそう書かれている。

【委員】

・それでよければ残していただいてもよいが、他にそれを書いている部分がないので、括弧書きになっていると思う。

【部長】

・冬季に、気温より水温が高い湧水環境はどれくらいなのか、知りたくないか。

【委員】

・平均気温と同じかどうか、確かなエビデンスがあるかどうかである。

【部長】

・“地下水”を“湧水”に変えればよいのではないか。

【事務局等】

・地下水が湧出するという湧水になるが、湧水の温度＝地下水の温度と考えてもよいのか。

【委員】

・実際に測っている所を見てもほぼ同じで変わらない。井戸でも測っているが、ほぼ同じである。湧水もほとんど同じ温度で、大体 17℃前後である。地下水も湧水もほとんど同じような温度なので、基本的に大丈夫ではないかと思う。

【委員】

・具体的には、湧水があるから常緑のセキショウも久留米にはたくさんあるし、ナガエミクリも水の中で冬を越せるし、外来のキショウブも冬に水の中で花が咲くというようなことである。

【事務局等】

・「かんきょう東久留米」で湧水ということで出させていただいたので、ここは湧水で置き換える。

【部長】

・資料4はデータを更新して、62 ページ以降に現況図がある。いろいろな地域の指定の面積等が 69 ページまでであるが、ここについて、何かあるか。

【委員】

・63、64 ページの「主な湧水点」の位置は大丈夫か。

【委員】

- ・見たところよさそうである。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・位置は湧水マップに合わせた。

【委員】

- ・67 ページ「5 保全地域等」について、今、新青梅街道の所から黒目川の下流にかけて、さいかちの道や、柳窪 4 丁目の竹林などが公有化されているが、その辺は保全地域等に含まれるような形になっているのか。

【事務局 等】

- ・これは時点が令和 2 年度なのでこれには入っていない。公有化した柳窪の樹林地は、「③樹林地」の方に本来含まれてくる形にはなるが、それを入れると時点が合わなくなってしまうので、今回これには入っていない。

【委員】

- ・承知した。

【部会長】

- ・東京都が玉川上水の所に計画している、片側 3 車線ぐらいの道路は実現されるのか。片側 3 車線を設けようとする玉川上水に蓋をしなければならないと思う。現実にあるとすれば玉川上水を真ん中に残して両脇を片側 2 車線にするというのが落ち着くところだと思うが、どうなのか。

【事務局 等】

- ・玉川上水は接道していない箇所が結構多い。私はその図を確認していないので何とも言えないが、計画である以上はいずれは事業化されると考えている。

【委員】

- ・保護派はそれを阻止するために、保全地域に指定したり、国の施設にしたりしているはずである。

【部会長】

- ・資料 5 生きもの現況で、71 ページの文章はどうするのか。

【事務局 等】

- ・69 ページにお戻りいただいて、審議会からもパブリックコメントの時期と合わせていろいろご意見をいただいた中で、緑の維持管理にかかる経費というのも市民の皆様にご理解いただいた方がよいのではないかという意見を踏まえて、「6 緑の維持管理に要する費用」で、この 10 年間の維持管理にかかる経費の推移を掲載させていただいた。これは追加である、

【部会長】

- ・承知した。よいと思う。
- ・資料 5 の 71 ページのこの文章、解説文はどうするのか。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・見え消しにしているが、赤字でコメントしているとおりである。前回結果との直接的な比較ができない状態ではないということで、こちらについての項目は設けずに、後述する生きものモニタリングについての指標種の確認結果を記載するという形になる。
- ・先ほどのコラム3で現況についてまとめているので、それを後段の「3生きもの確認状況」の説明文として入れる形で、市内の主な生きものの変化は補えられるのではないかと考えている。

【部 会 長】

- ・全く文章無しでいきなり表から始めるのか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・「3生きもの確認状況」となっている部分が2になって、「(1)確認種の概要」の部分で、先ほどの文章を入れる。

【部 会 長】

- ・なるほど、75ページの(1)が頭にきて、次に表が来て、76ページの希少種と77ページの外来種、先ほどのコラムという構成になるということであるがいかかが。

【委 員】

- ・72ページから74ページの鳥類の表は削除するのか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・これは削除予定である。

【部 会 長】

- ・全部削除するのはもったいないので、資料5の最後に参考として、前回の表として入れておいた方がよいのではないかと。資料集としても今回の結果が使えるので、鳥に関心があるお子さん等が見た時にチェックしてみようというのにも使える。全面削除はもったいない。

【委 員】

- ・この野鳥観察記録は観察した期間が入っていれば使えるということか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・見え消しになっているが71ページの下段にある出典を、前回平成28年にまとめた結果がこの表である。

【委 員】

- ・調査の記録というのは、最初に調査時期がないと理解しにくい。古い調査でもいつの調査かはっきり書いてあれば受け取りやすいと思う。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・もう少し後ろに参考として残すということはあると思う。

【部 会 長】

- ・今の草本と同じで、過去に見られたものが入っている。それはそれで貴重な記録なので、調査時期を入れていただいて、削除せずに最後に参考として入れていただければ

思う。

【事務局 等】

- ・資料6の生きものモニタリングの最後に参考資料で入れておいていいかもしれない。

【部 会 長】

- ・それがよいかもしれない。資料6はいかがか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・資料6は前回選定した指標種についてのモニタリングという位置づけなので、この鳥類の記録を参考資料にするのであれば、むしろ資料5の最後の方が、市全体の生きものの記録ということでよいと思う。

【委 員】

- ・今の野鳥のことが79ページのリストの中に入っているということか。「野鳥は友だち 東久留米バードウォッチングの会」という、その辺にデータの修正が入っている。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・資料5の方は現地調査と文献調査も含めたトータルの確認種の整理という位置づけである。
- ・資料6は個別に限定した種だけのモニタリングをしているということもあって、80ページに示しているように「主な生物種」を選定したので、それについて平成30年から調査をしたもののまとめである。

【部 会 長】

- ・では、資料5の最後に入れるということではよいのではないか。
- ・資料6について説明があったが、何かご提案はあるか。

【委 員】

- ・資料5、75ページ「(1) 確認種の概要」で、は虫類で総確認種が6種類で、希少種が5種類となっているが、希少種に入らないは虫類は何だったのか。シマヘビかという感じがするが、シマヘビは、今は希少種の中に入ると思う。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・もう一度確認する。
- ・希少種の確認について、昨年度調査時点では東京都レッドリストは2010年度版であったが、今回2020年度版に改訂されている。前回との比較ができるようにということで、2010年版、2020年版の両方を希少種の選定基準としている。ただ、前回のリストの希少種は2010年度版だけで選定している。もし厳密にやるなら、全部の確認種目録を作成して、2010年と2020年の基準に合わせたものでやるべきだと思うが、どうなのか。レッドリストが改訂された場合、新しい基準だけで考えた方がよいのか。

【委 員】

- ・私は最新の情報で表した方がよいのではないかと思う。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・そうすると例えば、前回の平成28年の希少種は2020年度版で改めて精査した方が

よいか。

【委員】

- ・私もそう思う。
- ・もう一つ伺いたいのは、2010年版と2020年版を比べた時に、2020年版に新しく入ったのがあると思うが、逆に2020年版で外されたものが何種類ぐらいあるのか。その数にもよると思う。絶滅危惧種が増える方向にあるように思ったので、そういう意味では2020年がよいと思ったが、その逆があれば教えていただきたい。

【部会長】

- ・最新のもので選定したと下に注記しはどうか。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・そうすると75ページの種数に種数を集計しているが、それももう一度見直した方がよいと思う。市民の方が前回の報告書と比べた時に、ひっかかると思う。

【部会長】

- ・よろしく願います。資料5、資料6はよろしいか。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・今の75ページの赤字、上から4行目の※で、この調査は平成23年から令和3年にかけての調査についての追記と、出典は弊社の平成28年の中間見直し時点の生きもの調査報告書と今回の生きもの調査報告書としている。
- ・委員より、なるべく出典を細かく書いた方がよいのではないかというご意見があったが、二つの報告書の中に集めた文献は全て記載している。こちらを表に出して書くのは可能ではあるが、引用文献の引用文献という、どんどん深堀りすることになるのではないかということで、現在上位の二つで掲載させている状態である。参考文献や出典の書き方についてご意見をいただきたい。

【委員】

- ・アジア航測さんの資料は購入できず、公表もされないもので、分からなくなった時に見ることができない。また、市民の方たちが参加した文献が載っていれば、例えば自分たち出したアズマヒキガエルはどうなっているのかなど、いろいろ考えられるので、アジア航測の非公開のデータよりも、こちらが参考に入っていた方がよいのではないかと思った。

【部会長】

- ・いろいろな方が調べる時に参照できるので、参考資料はあった方がよいと思う。データをどのように作っていくかということもあるが、原典は明記しておいた方がよいのではないか。

【委員】

- ・必ずしも公表できないものもある。

【部会長】

- ・公表資料は参照できるので、明記しておいた方がよいと思う。

【委員】

- ・79ページの参考資料に載っているものは、公表されないものも結構ある。

【委員】

- ・これがあれば、本当に調べたい時に、聞きに行くこともできるし、問い合わせもできると思う。
- ・公表していなくても、聞きに行く窓口が分かるというのは大きいと思う。オンラインでは公表しないが、聞きにすれば答えるという事例は割合多いと思っているが、そうでもないのか。

【委員】

- ・緑地保全地域の植生調査などは公開しないことになっている。

【委員】

- ・東京都は情報公開請求しないと教えてくれないが、例えば自由学園がやった資料については、東京都まで行くとそのものを貸してくれたりする。そういう意味では入っていたほうがよいと思う。

【委員】

- ・それは学術的な調査の場合だと思う。そうではない市民が行ったときに教えてくれるのか。要するに、調査の中には貴重種が載っている。どこにどのような貴重種があるというような内容が載っているから、教えてくれない。

【委員】

- ・東京都は都立の自然公園などの資料は情報公開請求しないと見せてもらえないようであるが、例えば自由学園の調査地域の資料については、東京都庁に行くとそのものを貸してもらえることもある。そういう意味では入っていたほうがよいと思う。

【部長】

- ・東京都資料、北多摩北部建設事務所資料というだけでよいのではないか。それを使用しているということが分かればよく、公表できる資料、アクセスできる資料は書くということではよいのではないか。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・前文の3の（1）の前段の赤字の所は取ってしまって、参考資料の方にまとめるか。

【部長】

- ・まとめてもよいと思う。公表していない資料は、その組織名などが書いてあればよいのではないか。
- ・アクセスできる資料はこちらに書いていただき、”他“や”など“という形ではいかがか。それともなくしてしまうか。

【事務局 等】

- ・事務局側としては、委員の意見とおりでよいのではないかと考えている。根拠は載せておいて、それが開示されるかされないかというのは先方の判断なので、開示請求に応じるか応じないかも含めて、このような資料を使っているという情報として載せて

もよいのではないかと思っている。

【部 会 長】

・市の方針としては出すということなので、それをお願いします。

【委 員】

・もう一点、77 ページの写真の中にオオカワヂシャがあるが、これでは分かりにくい。花が咲いてる写真があるので、事務局に送る。

【事務局 等】

・77 ページの写真について、ソウシチョウ、カダヤシも載せていないので、お持ちであればご提供いただければと思う。

【委 員】

・ソウシチョウは持っているような気がするが、帰って探してみる。

【部 会 長】

・カダヤシはいかがか。

【委 員】

・カダヤシは東久留米では捕まえたことがない。

【委 員】

・カダヤシとは何か。

【委 員】

・外来のメダカである。

【委 員】

・ミナミメダカとは違うのか。

【委 員】

・ミナミメダカは日本のメダカである。

【部 会 長】

・ポーフラ対策で輸入されたのか。

【委 員】

・そうだと思う。

【委 員】

・市内にはいるのか。

【委 員】

・我々は見ることがないが、調査で見つかったから書いてあるのだろう。

【委 員】

・資料編はどのように使うのか。

【部 会 長】

・教育関係者や学生や高校生、中学生などがデータとして使うことを想定している教育関連資料であろう。用語集も同様である。

【委 員】

- ・学生以外に使うとすれば調査会社の方であろう。

【委員】

- ・実践的ではないということか。ここまで詳しく載っていると、市民の方にも使って欲しいという気持ちになる。そうすると、いつどこで何が見られるという情報が欲しくなる。それが分かれば、例えば夏休みに、これはここに行けば見られるというのが分かる。そうすると資料編も非常に役立つと思う。
- ・私はそのような質問をよく受ける。写真集を作った時に、どこにいつ行けば見られるのかと質問された。

【委員】

- ・産卵のことも先生しか書いてない。先生がハヤの産卵について書いているだけで、どの季節に産卵しているとか、季節の巡りとか、そのようなことが書いていないので、書いていただくとよいのではないか。

【部長】

- ・委員、どこかの市の市民観察パンフレットのようなものをお持ちだったと思うが、それを探していただいてもよいか。

【委員】

- ・どのくらいあるか分からないが、探してみる。

【委員】

- ・これだけ網羅すると何かに生かしたいという雑談である。

【部長】

- ・雑談に止めず、ぜひ着手していただきたい。それがあれば資料編として完璧である。小学校などでも使える。多摩六都に何かあるのではないか。これは委員と委員でお願いできないか。
- ・資料7は91ページから99までであるが、これはアンケートの更新なのでよいと思う。
- ・資料8は、以前、東久留米市の緑地保全計画を策定したときに、強い施策から弱い施策までをまとめた表を転記したものである。
- ・資料9は経緯と会員などがある。
- ・資料10は今回設けた。以前見ていただいたコラムでSDGsの辺りをこちらの方に入れ、生物多様性も気候変動との絡みは資料10の2に解説した。これは今世の中に出回っているものでは一番的確な解説になっていると思う。
- ・それから111ページ、各施策のつながりの図が本文の頭の方に、素案では1ページにあるが、それと産業がどのようにつながっているかということである。10次産業ということで、これは基本構想審議会の時に提出した資料であるが、やはり農業を生かして6次産業にさらにプラスしていくという形で、10次産業というのを解説したものである。ここまで何かあるか。

【委員】

- ・111ページの図はもう少し大きい方がよい。字が見えない。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・資料 10 ということでこの位置に入れたが、前回までは資料 9 のような事務的な内容の資料を後ろにまとめて載せていたので、資料 10 を前に持ってきてよいのではないかと思うが、この位置についてご意見をいただきたい。

【部 会 長】

- ・用語集と近いのでこのままでよいのではないか。それとも SDG s を強調したいということか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・今まで、解説という意味であれば資料 10、11 ということでよいと思うが、これまでは策定の経緯や設置要綱、委員名簿は基本的には後ろにまとめてあった。

【部 会 長】

- ・それとも奥付のような感じで資料 9 を最後に持って行ってもよいのではないか。確かに分断している。

【事務局 等】

- ・確認させていただきたいが、資料 9 の 3 は個人が特定できるような書き方になると思うが、ご本人にある程度話をしておいた方がよいか、それとも必要ないか。
- ・111 ページの「例えば…」の所に、若手後継者が育てた果物でジャムを作るとか、書店というような表現も出てきているので、事務局の方で一言、こういう形で表現させていただいているという旨をお伝えした方がよいか。

【部 会 長】

- ・具体的な個人のイメージが強すぎるということである。それは事務局の方でお願いしたい。
- ・では資料 11 の用語集について。ページバイページで確認したい。112 ページは「インクルーシブ遊具」が入ったということである。
- ・113 ページは、「縁崖林」に崖線面が補足されている。
- ・114 ページは市民委員の方から涵養はひらがなではないかという指摘があったので、それを追加したということである。
- ・115 ページの「高木層」というのはいかがか。

【委 員】

- ・高木層の説明が何となく不自然である。

【部 会 長】

- ・これは説明が追加されている。前は黒字の部分だけであったが、これは事務局が追加したのか。

【委 員】

- ・それは私が書いたが、取っていただいても全然構わない。ただ、フラットな所と高さがある空間、体積がある所とは違うということをもう少し簡潔に書ければと思いつつ長く書いた。森があった所を切ると暑くなるとか、普通に実感するだろうということ

ころをどう表現したらよいか。

【委員】

- ・これは高木層ではなく、高木林の説明ではないか。高木層を含む林を高木林というのではないか。

【委員】

- ・「高木層を持つ森林は、」という部分がその説明である。

【部長】

- ・説明する用語を高木層ではなく高木林にするか。

【委員】

- ・「東久留米市は、このような地域である。」というのはどうなのか。

【部長】

- ・それは少し引かかる。

【委員】

- ・柳窪では、高木がある所に住んでいるとクーラーがいらぬという話を聞くので、知っていてもよいのではないか。

【委員】

- ・「東久留米市は、このような地域である。」というのはいかがなものか。

【部長】

- ・「市にもみられる」くらいではどうか。いらぬか。

【委員】

- ・いらぬと思う。

【事務局等】

- ・恐らく、高木層という表現自体がこの計画の本体の中には入っていないが、前回の議論で、これも入れた方がよいということになったと理解している。

【部長】

- ・これは緑地保全計画の用語を引っ張っているところがあるので、多分その名残だと思う。あっても悪くないので、「東久留米はこのような地域である。」を取って、「高木層・高木林」にしてはどうか。

【委員】

- ・よいと思う。

【部長】

- ・116 ページ。「持続可能な開発目標」の説明は、前段は事務局で下段は私が追加したものである。インクルーシブ・ウェルネエス指標が SDG s の総合評価指標になっているというのが大事なことだと思う。
- ・アダプティブ・マネジメントであるが、マネジメントは管理ではなく経営なので、“(経営)” と入れた。日本語の学術用語は誤訳に近いものが山ほどあるが、これもその一つである。

- ・ 117 ページ、「植物分類」はこれでよろしいか。

【委員】

- ・ 植物分類は中間見直しから 5 年で、一般の書籍、図鑑類が DNA データをもとにした APG 分類に変わったので、過去形にした。今、生物分類全体が変わっていくところであるが、それはまだ十分研究されていないものもあり、植物分類だけに止めた。エングラマーから APG に変わったというところだけはっきり出しておけば、古い図鑑も利用できるのではよと思った。

【部長】

- ・ 「水質調査」は、審議会委員の原案に委員の意見を加えて作成して、最終的なチェックを審議会委員にさせていただいたものである。
- ・ 「生態系」も前の文章があまりにも物理的な印象が強いというので、委員と調整したものに、委員からのものを生かして作成した。
- ・ 118 ページは前のおりである。
- ・ 119 ページ、「レッドリスト」はあいうえお順ではなく、「絶滅危惧種」の関連で出てきているので、「レッドリスト」の文字を下げるなどした方がよいのではないか。

【委員】

- ・ レッドリストでアスタリスクというのがある。留意種というものである。先ほどの一覧表の爬虫類の中にニホンヤモリがあったが、これはアスタリスクの種である。留意種は、現時点では絶滅の危惧はないが、8 項目中のある項目に当たる場合はアスタリスクが付くということであるので、リストの中にアスタリスクを追記した方がよいのではないかと思った。

【部長】

- ・ それは具体的に作っていただけるか。

【事務局（コンサルタント）等】

- ・ なかなか難しいので説明を補足する。

【部長】

- ・ 入っていれば自分で調べるといふこともあるので、表には入れていただきたい。
- ・ 120 ページは窒素関係である。これも先ほどと同じで、最終的には審議会委員にチェックしていただいている。
- ・ 調整池と調節地の違いは、部会でこの違いは何かという話があった。それが追加されたということである。

【事務局 等】

- ・ 事務局の方で調整池と調節地の違いを明確化した時に出てきた議論である。

【部長】

- ・ 適正と適性は何度か私が話をしたが、大事なことなので入れた。
- ・ 121 ページ、「都市公園のストック効果」はストックとは何かということで、事務局

の方で入れていただいた。

- ・122 ページは「萌芽更新」が追加された。
- ・123 ページの「水辺と水辺地」は、環境基本法の14条には、森林、農地、水辺地等の保全とあるので、水辺地という言葉で統一した方がよいのではないかとということであるが、水辺の方が一般的なので、水辺地についての解説を入れた。
- ・「名水百選」も審議会の方で、次回の選定で南沢が外れるのではないかとのご懸念からの意見があった。名水百選は外されることはなく、新たにプラスされていくということを解説した。

【委員】

- ・122 ページの「萌芽更新」の内容が引かかるので、もう少し考えていただきたい。「樹木を伐採した後は、残った根株から…大量の草木が」の“草”はいるのか。
- ・「これを利用して高老木の樹木の若返りを図る」とあるがそれだけではない。積極的に樹木を利用するためでもある。
- ・「大木が伐採されることで」とあるが、大木ばかりではない。

【事務局 等】

- ・そこは事務局で整理する。

【部 会 長】

- ・委員にも修文をお手伝いいただければと思う。
- ・用語集は以上でよろしいか。
- ・最初のパブリックコメントでPDCAの図の見直しがあったので、A4にまとめたものを朝お送りした。
- ・パブリックコメントで対応するとすれば、その条例との関係でメカニズム、全体の流れが分かるようにした。「かんきょう東久留米」とはそもそも何かというところもある。

【事務局 等】

- ・ページでいうと、この(2)と(3)をまとめてもらったような形なので、例えば(2)のPDCAを全部取ってしまっ、(3)の最後にこれを載せるというような形はどうか。

【部 会 長】

- ・それでもよい。お任せする。
- ・以上であるが、何かあるか。その他について事務局より説明をお願いする。

(3) その他

【事務局 等】

- ・長時間のご議論感謝申し上げます。本日もご議論いただき、素案、コラム、資料編の確認ができたところである。ご意見等を確認させていただき、修正できた段階でご送付する。

- ・次回第 10 回は最後の検討部会になる。前回の第 8 回の終了時に、皆様におかれましては 1 月 18 日水曜日の 14 時から開催ということをご確認をいただいた。正式な通知につきましては別途ご案内させていただく。

【部 会 長】

- ・事前に最終版を委員の皆様にお送りいただいて、最終チェックは事前に行っていただければと思う。

【事務局 等】

- ・データの容量の関係から、ダウンロードのご案内をさせていただく。お手数をおかけする。

【部 会 長】

- ・それではご多用中、長時間に渡り感謝申し上げます。これで第 9 回の検討部会を終了する。

以 上